

平成18年度武蔵野市財政援助出資団体経営目標評価シート

団体名		社団法人武蔵野市シルバー人材センター						
①	指標名	公共民間受託契約金額			目標値	425,000	実績値	415,933
	過去の実績	平成15年度	平成16年度	平成17年度	達成率	97.9%	達成状況	未実施(未達成)・達成
	(単位:千円)	398,626	401,473	435,090				
	取組内容	<p>※18年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。</p> <p>普及啓発及び就業開拓事業として、全戸ビラ配布3回、J R 駅頭宣伝活動2回(春・秋)の実施。受注の拡大と会員募集を目的にホームページをリニューアルした。地域のイベント参加は中央コミセン・八幡町コミセン夏祭り、青空市、シルバースポーツ大会、市内一斉清掃等に参加し、センターのPR活動を実施した。またセンターフェアを開催し、会員相互及び市民との交流を図った。仕事グループの充実として、便利班、家事援助班、植木班、ふとん乾燥班、手芸小物班などが効率的に仕事をこなすため、リーダーを中心に自主的運営に努めた。技能講習会は、植木せん定とパソコン講師向けの2種目を実施した。就業の提供方法として全会員に毎月ニュースを配布し広く募集を行い機会均等につとめた。</p>						
一次評価	<p>※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。</p> <p>公共の受託金額は199,115千円(前年度227,959千円)、民間の受託金額は216,788千円(前年度207,131千円)となり、これは市からの受託事業「家具転倒防止器具取付業務」の減が影響し目標達成には至らなかった。民間に関しては前年実績より4.6%増加しており、特筆すべき大きな受注はないが、受注件数6,878件(前年5,611件)と年間を通じて件数の増加によるものである。民間事業については引き続き地道な努力が必要と思われる。また、会員数も減少傾向にあるため、就業会員が不足し受注に至らなかったことも要因と考えられ、これからの事業拡大には会員増強が急務となっている。</p>							
二次評価	<p>●受託契約金額を目標に設定していたが、前年度から大幅に契約金額が落ち、目標を達成できなかった。</p> <p>●18年度は、民間からの受注額が前年度から4.6%の伸びを確保した一方、市からの受注に関して、「家具転倒防止器具取付業務」の減のため、全体としては、当初設定した目標を達成できなかった。(公共と民間の契約比は47.9%:52.1%)</p> <p>●普及啓発及び就業開拓事業に力を入れ、民間からの受注額を伸ばしたことは評価できるが、なお一層受注件数を増やす努力とともに、会員を増強する努力をしなければならない。(会員数18年度1,073人、17年度1,196人)</p>							
②	指標名	損益計算書 事業収入 自主事業収入 収益事業			目標値	227,850	実績値	216,789
	過去の実績	平成15年度	平成16年度	平成17年度	達成率	95.1%	達成状況	未実施(未達成)・達成
	(単位:千円)	182,717	188,122	207,131				
	取組内容	<p>※18年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。</p> <p>介護保険、日常生活支援事業の周辺にある利用者負担の高齢者家事援助の受託拡大 植木剪定、除草、掃除等の家庭からの受注拡大 ・ 駐車場管理、雑事務等企業からの受注拡大 アパート、小規模マンション等の清掃の受注拡大 ・ 簡易な修理、家具の移動等、便利班の受注拡大 リサイクル事業・補習教室事業の再構築 パソコン教室等新規自主事業の開設</p>						
一次評価	<p>※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。</p> <p>目標値は前年度比10%増に設定したが、家庭と企業からの受注は伸びたものの、自主事業が減少し目標値に至らなかった。自主事業のリサイクル事業は回復傾向にあるが、補習教室は少子化の影響による受講生の減と教室として借用していた消防分団が使用できなくなり教室数も減少したため今後も厳しい状況にある。新たな自主事業の開拓も視野に入れ、家庭及び企業への積極的な宣伝活動を行い、5%台の伸びを目指していく。</p>							
二次評価	<p>●「自主事業収入、収益事業」として、民間からの受注額を指標に設定している。18年度は前年度から4.6%の伸びを確保したものの、当初設定した高い目標を達成できなかった。</p> <p>●今後も新たな自主事業の開拓を行うとともに、近隣市に遅れをとらないよう民間からの受託事業を確保し、自主事業収入の確保に努める必要がある。</p> <p>●公益法人制度改革に対しては、常に情報収集に努め、適切な対応を行う必要がある。</p>							
③	指標名	会員の活用			目標値	4,600	実績値	6,004
	過去の実績	平成15年度	平成16年度	平成17年度	達成率	130.5%	達成状況	未実施・未達成(達成)
	(単位:時間)	—	—	4,381				
	取組内容	<p>※18年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。</p> <p>事務局業務に会員を臨時職員として年間延べ205人雇い入れ、6,004時間の雇用となった。業務内容は、運搬業務、建物清掃、請求金額計算、OA入力等である。一月あたり15名程度の会員をローテーションにより、幅広く雇用した。</p>						
一次評価	<p>※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。</p> <p>職員人件費や派遣社員の委託費等が増額しつつあり、補助金の大半を占める人件費は縮小していくことが求められているところから、職員の仕事を会員に移行し人件費の支出を抑えとともに、会員の働く場の提供と会員自らセンター業務を担うことを目的に推し進めた。センターの財政状態も厳しく、今後も会員の能力を幅広く活用することにより、効率的且つ活力あるセンターを目指す。</p>							
二次評価	<p>●18年度は、事務局業務に会員の力を活用する取組をはじめ2年目となる。</p> <p>●会員を臨時職員として雇用了時間数を目標に設定しているが、18年度は当初設定した目標を大きく上回り、目標を達成した。</p> <p>●会員の活用が、シルバー人材センター全体の活性化を図り、同時にコストの削減につながるよう運営を工夫していく必要がある。</p>							